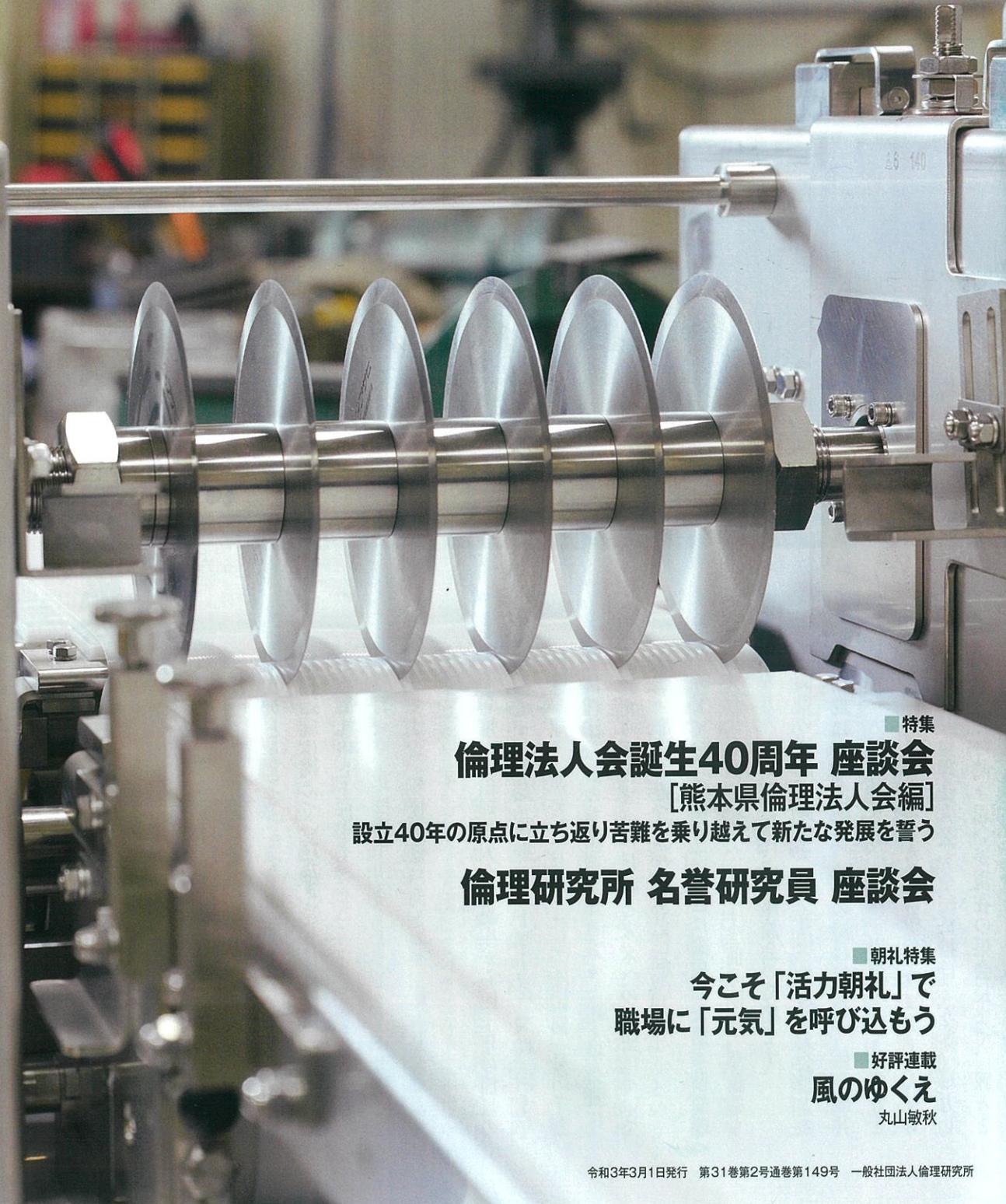


Rinri Network

2021.3
No.149

企業に倫理を 職場に心を 家庭に愛を

倫理ネットワーク



■特集

倫理法人会誕生40周年 座談会

[熊本県倫理法人会編]

設立40年の原点に立ち返り苦難を乗り越えて新たな発展を誓う

倫理研究所 名誉研究員 座談会

■朝礼特集

今こそ「活力朝礼」で
職場に「元気」を呼び込もう

■好評連載

風のゆくえ
丸山敏秋

設立40年の原点に立ち返り
苦難を乗り越えて新たな発展を誓う

全国で2番目の倫理法人会として誕生した熊本県倫理法人会は、令和3年2月16日、40周年を迎えました。熊本県は平成28年4月14日、16日に大震災に見舞われました。追い打ちをかけるように、令和2年には、熊本県内で発生した豪雨災害および新型コロナウイルス感染症の拡大と更なる苦難に直面しています。こうした苦難に打ち克つために、40年間、倫理運動に身を投じてきた2人の大先輩と現県会長、法人局局長とが集い、この大苦難を乗り越えた先にある「希望の架け橋」を語ります。

和田 毅
倫理研究所法人局局長

岩永研一

熊本県倫理法人会相談役

村上尊宣
熊本県倫理法人会会长

岡崎源次

熊本県熊本北倫理法人会相談役

詣
記
念

神加
社藤

神加
社藤

玉
盆

おめでたす
ターミニコンサルティング

熊本震災
復興募金





和田毅
(わだ・たけし)

昭和36年(1961年)生まれ 59歳

一般社団法人 倫理研究所
法人局局長、常任理事

平成元年 社団法人倫理研究所入所。
平成27年より法人局普及事業部部長。
令和2年8月より法人局局長



村上尊宣
(むらかみ・たかのぶ)

昭和40年(1965年)生まれ 55歳

(株)エコファクトリー 代表取締役社長
熊本県倫理法人会会长

平成15年に熊本市中央倫理法人会入会。
平成22年から同会会长。
平成31年より県央地区長を経て、
令和2年度より熊本県倫理法人会会长



岡崎源次
(おかざき・げんじ)

昭和6年(1931年)生まれ 89歳

シュテルン熊本(株)相談役
熊本県熊本北倫理法人会相談役(設立会長)

熊本県倫理法人会設立メンバーの一人として、
金澤幸一初代会長を支え、
藤井計吾氏と共に初代副会長に就任。
その後、熊本県熊本北倫理法人会初代会長を歴任



岩永研一
(いわなが・けんいち)

昭和7年(1932年)生まれ 88歳

(株)岩永組 代表取締役会長
熊本県倫理法人会相談役、法人アドバイザー

熊本県倫理法人会設立時より会を支え、
記念誌制作のリーダーを務めるなど、
会の歴史のすべてを俯瞰。熊本市倫理法人会初代会長、
熊本県倫理法人会三代目会長を歴任

40年前の熊本県倫理法人会 設立した当時の様子、感動、エピソードについて

1981年2月16日、熊本県倫理法人会

設立大会を挙行してから、本年、40周年

を迎えました。全国で一番目に設立され

た都道府県倫理法人会として、九州地方

のみならず、全国の模範的な会として、高く評価されています。草創期を知る一人の大先輩に当時の活動の様子、その背景を語って頂きました。

◆和田 まずは、熊本県倫理法人会の40年の足跡を熟知する大先輩のお二人に語っていただきます。お一人は藤井計吾先生のこと

をよくご存じだと思いますので、それを踏まえて、当時の様子をお聞かせ下さい。

岡崎 丸本唯雄氏と藤井計吾先生は県立熊本工業高校出身で、大の仲良しで、藤井計吾先生も早朝の「朝の集い」(現・おはよう倫理塾)に通うようになられたんですよ。

岩永 だからですかね。藤井先生は熊本工業高校の定時制のお世話をなさっていましたよ。定時制を卒業した人がこれから就職していく

高校の定時制の話題をなさいましたよ。

「ここで、全国会長会をやろう。そのためにも倫理法人会新設だ」と意気込んでおられた。沖縄県倫理法人会設立は、藤井先生のリーダーシップが、發揮された象徴でしたね。

岡崎 我々も墓参しますが、沖縄県倫理法人会の皆さんには、何かあると必ず藤井先生のお墓参りに行かれますよね。

◆和田 令和の時代となつても熊本だけではなく沖縄の会員の方も墓参するのですか。

岡崎 はい。熊本市内のある先生のお墓は、我々の原点のような場所です。

村上 私も先日、先生のお墓に行きました。

熊本県の歴代会長は、藤井先生の足跡を辿りながら原点に立ち返ります。

◆和田 熊本県倫理法人会の急成長、勢いを感じられたのは、いつ頃でしょうか。

岡崎 熊本市倫理法人会が一番多いとき、500社でしたね。

岩永 熊本県は二代目の村上守人会長の時、倫理研究所の会合で、「熊本県は1000

中で、倫理の学びや実践も必要ではないかと考えていたと私は思うのです。

◆和田 私も丸本唯雄氏に刺激を受けて、入会されたと聞いております。その後、藤井先生は、熊本県倫理法人会を立ち上げて、北海道や沖縄にまで行かれたのですよね。

岩永 藤井計吾先生の普及活動は、「われ社会浄化運動に貢献する」の精神で、初めてお会いする人にも堂々と「倫理運動に賛同してほしい」とのスタンスでした。私も熊本県倫理法人会の初代会長を受ける際、藤井先生の強引さに根負けしました。先生の人間味溢れるお人柄、適切な指導のおかげで今日まで純粹倫理を学ぶ自分がいたのだと感謝しかありません。

岡崎 熊本県倫理法人会の設立までには、「やればできる」という強い信念で、普及拡大に県内を奔走されましたよ。肥後銀行、熊本放送など知名度の高い企業にまで呼びかけて、「倫理法人会」の認知度を高めていった。今日、熊本倫理法人会があるのもこのときの普及活動があるからですよ。

岩永 熊本から北は北海道へ、雪の札幌に熊本で履いている靴で行き、すべて転んで

社にします」と決意表明しました。そうしたら大庭政信・熊本市二代目会長は「県が1000社にするなら、熊本市は500社にするぞ」と意気込んでいました。

◆和田 熊本市が500社を引き受けるということですね。

岡崎 当時の勢いは凄まじかった。

岩永 大庭さんは普及をものすごく頑張りました。熊本市と熊本中央を分けた、あれが分封の始まりでしょう。大庭さんは戦略家だった。役職者を全員呼んで、一人ひとりに的確に何社できるかを指示していた。その成果が500社だったんですよ。

◆和田 熊本市が500社を達成したことで県全体で1000社を達成したわけですね。今でも熊本県の浸透率は、全国で一番高いですね。

村上 そうなんです。今では県全体で2700社を目指していますからね。当時の先輩方の普及拡大の功績は、本当に偉大だと思うのです。

村上 昨年7月の豪雨災害では素早く初動に踏み切れたというのが、熊本地震での学びが活かされた点といえますね。熊本地震のときは、情報が錯綜し、初動までのタイムラグがありましたが、豪雨災害のときにはそのときの経験が、まさに活かされました。

被災地域は県南地域に集中しておりますから、県南の那須一郎地区長と県西の森下弘美地区長とから情報を迅速に受けることができました。そのため、被災の状況がリアルに分かりましたので、即行で、私と妻と、石原政孝県普及拡大委員長にもお願いして、支援物資や水を車に積んで、翌日の朝一番には、熊本市を出発しました。

そして、一日後には災害対策本部を立ち上げました。私が対策本部長になりました。政孝県普及拡大委員長にもお願いして、支援物資や水を車に積んで、翌日の朝一番には、熊本市を出発しました。

ところが、このとき、私はまだ単会の会長



倫理法人会設立40周年から50周年へと未来に向けて

◆和田 本当に大変動の時代に、40周年を迎えるました。現会長として、あるいは草創期から支えていた一人の大先輩から、現会員、未来の会員にお伝えしたいことを教えて下さい。

村上 私は倫理法人会に入会して19年目になります。倫理で救われた一人です。感謝と恩返しを、これから入会する皆さんにもお伝えし、熊本県倫理法人会50周年、100周年と脈々とつないでいきたいです。そのために、「今」に真心を込めて、感謝の思いで普及して

全国からの支援物資や義援金の受け皿となる場所や具体的な人の配置も決めることができました。

そうしたスピーディーな動きが熊本県内の23単会にも伝播していきました。全国的にも「災害時の倫理法人会としての支援活動のあり方」が明確になったと思います。

◆和田 昨年から続く「コロナ禍では、経験が活かせたところと、未知なることで、活かせられないところもある訳ですね。

村上 はい、コロナ禍は初めての経験ですから、対応の仕方については、正直、迷いました。ただし、倫理研究所が活動のガイドラインを示してくれましたので、単会の会長の皆さんには方針を伝えやすかったです。とはいっても、単会はそれぞれに状況も環境も違いますから、単会の会長の方針を尊重しながら、それを最優先にするというスタンスを浸透させてきました。

◆和田 対応は単会によつて様々ですよね。倫理研究所の立場としては、かつての集合タイプへ戻したいと願っていますが、すぐには戻れそうにありません。

いきたいと思います。私は入会された皆さんのが幸せになることが本当にうれしいです。75年の倫理運動のノウハウ、純粹倫理の凄さといふのは、私たちの人生に本当に響いて一体になつています。これから倫理に触れられる方々が、たくさん待っています。ですから、自信を持つ倫理を伝えていきたいです。

今年度の目標は、県内それぞれの単会会長が、令和3年度の目標である2700社の実現に向けて、単会会長の思いを具現化することです。それが県役員の役割だと考えます。単会の発展をお世話役として、お手伝いしながら、2700社を必達させます。

◆和田 村上県会長の決意をお聞きしました。大先輩のお二人からも、後輩に向けたメッセージをお願いできますか。

岩永 人生は一度きりです。純粋倫理を「学ぶ」と「学ばない」のとの違いは比べられません。幸運にして倫理法人会に入会できた皆さんは、純粋倫理を学び、実践を積み重ねていただきたいです。倫理に出会ったからには、「潔く頑張って実践するのが一番!」、私はそう確信しております。

村上 単会の判断は、本当に様々でした。

企画会、合同役員会などでもMS朝礼のあり方を那須方面長とも確認しました。

岩永 自肅期間を終えて、活動再開後もMS後の朝食会の運営が、バラバラになってしまったのは、寂しいですね。

◆和田 朝食会は、講師とのより近い距離感で、普段、聞けないような話が聞けるというメリットもあり、MS後に開催する意義が大きいようです。

岡崎 その通りですね。私もコロナ禍という苦難の時代にこそ、MS開催を続けることが大事だと思うのです。

村上 そうですね。MS開催の重要性と県の委員会活動の意義も痛感しました。豪雨災害のときも委員会活動の一環で支援をしましたし、退会防止も被災地での普及活動もしっかりとやっています。被災地の会員企業は百四十数社ありましたけれども、皆さんに義援金を分配しました。「倫理法人会に入つてよかつた」という声、感謝のお手紙を県事務局にも多数頂きましたよ。倫理法人会が果たすべき役割、使命を「今、まさに学んでいる」ということなんですよね。



◆和田 岩永さんの言う通りです。比べられないからこそ、学べるチャンスは、つかみ続けてほしい。「縁で倫理法人会に辿りついたのなら、「今、ここで」しがみついて、学びを続けながら人生を謳歌して下さい。

◆和田 ありがとうございました。岡崎さん、岩永さん、これから10年も、倫理法人会・半世紀の生き証人として、お元気でご活躍下さい。村上会長も交えて、設立50周年の際、またお会いしましょう（全員・笑）